

今週の富大生

# Weekly TOMIDAISEI

第50号

人文学部 人文学科  
東アジア言語文化コース  
日本語学分野 2年  
美濃加茂高等学校  
(岐阜県)



子どもとの関わりにやりがいを感じて

## 読書好きで、「ことば」そのものに興味

幼い頃から本を読むのが好きでした。小学校では図書館の本を片っ端から読んでいました。特に長い物語が好きで、今振り返ると、その頃から「ことば」そのものに興味がありました。

大学進学時は、国語の勉強ができる学部ともう一方で興味を持っていた児童福祉の勉強ができる学部で迷いました。教員免許を取得して先生として子どもと関わるよりも、違う立場で関わりたいと考えました。

人文学部で興味のある言語の勉強をして、課外活動で子どもと関われる方法を探そうと思いました。

## 児童文化研究会に参加

地元である岐阜県可児市は、少し移動したら名古屋まで行けます。大都市のベッドタウンとして住宅街の広がる場所から、賑わいのある県庁所在地に住んでみたいと思いました。富山大学は富山県の中でもまちなかにあることが魅力でした。富山大学人文学部を受験し、入学することにしました。入学後、サークルに入りたいと思い富山大学のサークル紹介のウェブサイトを見ていました。児童文化研究会では子どもに関わる活動ができると知り、活動に参加することにしました。

## 「子どもたちに楽しんでもらいたい」一心で

普段は小学校や児童館に出向き、子どもたちと一緒に遊ぶことを軸にサークル活動しています。みんなで工作をする創作ゲームなどの企画を、サークルメンバーで話し合って決めます。メンバー全員が、子どもたちに楽しんでもらうために話し合う時間がとても充実していると感じています。

中には、楽しいという反応の子どもばかりではありません。そういう子がいると、「もっとお話ししてみたい」「この子を心から笑わせてみたい」という気持ちになります。

## 地域に根付いた活動

富山県舟橋村では、NPO法人「園むすびプロジェクト」による公園の賑わいづくりの一環で、月に一度イベントを開催しています。舟橋村の小学生が「子ども公園部長」として企画を立て、私たちはその企画を実現できるようお手伝いをします。イベントの司会進行をすることもあります。色々な活動に参加していくうちに、地域の方々との繋がりが広がっていくことを実感しています。

## 子どもと関わることのできる将来を描く

サークル活動を通じて、子どもと関わることの充実感ややりがいを見出しました。卒業後の進路についても、「子ども」を軸に考えてみたいと思っています。現在サークルの先輩方のお話を聞くなどして、子どもと関わる仕事についてのリサーチをしています。



## お世話になった高校の先生へ

先生のおかげで自由にのびのびと大学生活を送っています。最後まで面倒を見てくれてありがとうございました！